

2013年11月結婚をした。ふとしたことから恩師を思い出し、挨拶に訪問したところ、このエッセイを書くことになった、光栄な事である。中学高校と通った我が母校、立志塾を卒業し、早10年が経とうとしている。忘れることのできないあの頃を振り返り、ここに改めて記そうと思う。乱文乱筆、また稚拙な表現はご容赦頂きたい。

「苦渋の期間を超えた、その先にあるもの」

今思い返すと、やはり受験はつらいものだったと思う。受験勉強が本格化する高校3年時、私は部活と文化祭双方に力を入れていた。勉強も部活も学生生活も全て楽しむ、という信念もとに過ごしていたが、そんなに甘いものではなかった。朝練で5時起床、文化祭の準備で帰りは23時過ぎ、そんな日でも塾へは必ず足を運んでいた。今日はいよいよ、では無く、こんな日だからこそ、今日ここまで出来たら受かる！という自分ルールを設け、いつも先生たちの帰りを遅らせていたものだ。

愚直に、ストイックに取り組んでいたと思う。通学時間は単語帳とにらめっこ、授業毎にノートを纏め、誰かに対し説明出来るまで覚える、テストの結果に一喜一憂しながら、間違えた部分を分析、その繰り返しであった。テストで点数が取れる人は、頭がいい人ではない、人より長く机に向かってきた人だと思う。受験に特別な処方はない。

立志塾のよさを一言で語ると、「熱い」という言葉が相応しい。まだ経験したことのない不安を取り払い、一人一人に真摯に向き合ってくれる。そして受験という苦渋の期間を超えた先にあるものを、必死に示そうとしてくれていた。その方針はきっと今も変わらないのだろうと思う。

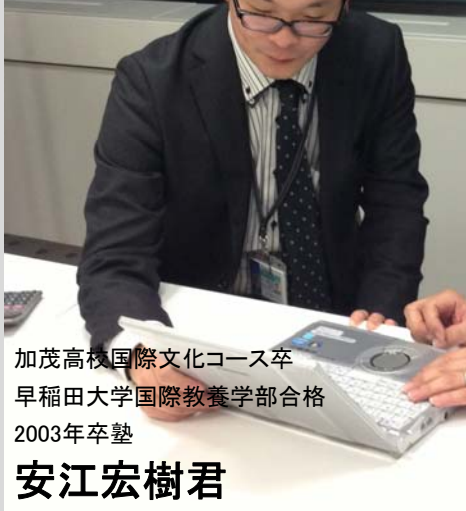
「因果応報。これは、いつでも変わらない」

第一志望校に受かったとき、本当に嬉しかった。飛び跳ねて喜んだことを、今でも覚えている。また、どんなときも我武者羅な奴、努力を惜しまない奴は必ず報われる、ということを学んだのはこの時であった。今はまだ実感は無いかもしれないが、成功経験として、皆さんもこの感覚を早く掴んでほしい。受験や就活を初め、人生には勝負どころが多々ある。会社に入ってしまうと毎日が勝負みたいなものだが、その因果応報は変わらない。当然余程の天才でもない限り、努力しない結果や燦爛たるものだが、万全尽くした際の自信の積み重ねを経験して頂きたい。月並みな言葉だが、世の中そんなに甘くはない。高校、大学、そして社会人と、これから目まぐるしい環境変化を経験してゆくことと思うが、その荒波の中でも輝ける自分を見出してほしい。

「将来の自分を強くイメージ」

現在の仕事柄、よく海外とのコミュニケーションを必要とされる。相手は欧州、アジア、遠くはアフリカ…と多岐に渡り、日々のメール、電話会議、はたまた現地訪問/来日の際のアテンド等、コミュニケーションは当然英語であるが、特に苦勞はしていない。むしろ周りをリードできる存在でありたい。

卒業生からの手紙 Vol.3



加茂高校国際文化コース卒
早稲田大学国際教養学部合格
2003年卒業

安江宏樹君

中学1年生から高校3年生までの6年間、間断なく立志塾に通い、立志塾初の早稲田大学合格者。立志塾をいつも「我が母校」と言い切ってくれる生粋の立志塾っ子。大学時代は、1年間イギリスに留学し、早くからグローバルスタンダードを体感し、本物の国際感覚を身につける。

と思える自信がある。私は昔から英語が好きではあったが、ベースを築いてくれたのは、高木先生であり、その時築いたベースで今仕事が出来ている。受験時よく陥りやすいが、勉強は点数を取ること、大学に入ることが目的では無い。将来の自分はどうか、を今一度強くイメージを持ってほしい。海外で働きたい、研究者になりたい等、人それぞれ思い描く自分があるかと思う。私の場合は、英語を使って仕事をするのだろうか、と中学より思い続け、今に至る。よく「受験が終われば必要無い知識」という人もいるが、決してそんなことは無い。少し意識を変えるだけで、物事の見方が変わってくる、是非試して頂きたい。

また、まだ将来の自分のビジョンが見えてこない人、だからこそ尚更勉強をしてもらいたい。いつどんなきっかけで、そのきっかけが生まれるかはわからないが、幅広く興味を持ち、選択肢を多く持つことが大切だと考える。受験で全てが決まることは無いが、人生を大きく加速させることに間違いはないと思う。誰よりもあきらめるほど、愚直にがんばり続けてほしい。

「悲観せず、前向きに」

歯を食いしばらなくてはならないタイミングは、年齢・環境に応じて、至る所に存在している。皆さんの場合、今回は「受験」、悲観せずに前向きに取り組んで頂きたい、死にやしない。目先の合格のみならず、受験時につけた体力は今後の人生に必ず生きてくる。一立志塾生として、ここで勉強だけではない、生きるうえで大切な何かを学べたのかと思う。皆さんもその精神の後継者となってほしい。

最後に私の好きな詩がある。この詩を激励の言葉とし、結びとさせて頂きたく。

受験でも会社でも変わらない事実、
「因果応報」
万全を尽くすこと

最後に私の好きな詩がある。この詩を激励の言葉とし、結びとさせて頂きたく。

“Wanderer, your footsteps are the road, and nothing more; wanderer, there is no road, the road is made by walking. By walking one makes the road, and upon glancing behind one sees the path that never will be trod again. Wanderer, there is no road- Only wakes upon the sea.”

(徘徊者よ、君の足跡が道だ。それ以外の何ものでもない。徘徊者よ、道などない。道は歩いて造られるのだ。歩いて道は造られる、そして後ろを振り返り向くと、再び踏まれることのない細道が見える。徘徊者よ、道などない。あるのは海の上の航跡だけだ。)

(2013/12/23 安江宏樹)



現在は豊田系の商社に勤務し、全世界を相手にグローバルに活躍する。中学、高校時代に培った真摯にやり切る力と魂は、社会人になってからも、さらに磨きがかかり、彼の人生を今もお、さらなる高みに加速させ、彼を光り輝かせる。